

足を洗ってくださったイエスさまの手

ヨハネ 13 : 1 - 17



司祭 ヨハネ 井田 泉

2018年6月2日

日本国際ギデオン協会京滋奈地区早天祈祷会

奈良基督教会にて

時が来ました。そのようにはっきりと聖書に記されています。

「13:1 さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」

2～3年前にイエスは、「わたしの時はまだ来ていません」と言われたことがありました（ヨハネ 2:4）。あのカナの婚宴でぶどう酒が足りなくなったとき、母マリアがイエスにそのことを告げると、イエスはそのように言われました。ぶどう酒は血を暗示します。イエスにぶどう酒を求めることは、イエスの血を、ご自身の命を求めることだと、感じられたのです。

「わたしの時はまだ来ていません」

しかしその時からすでにイエスは、いずれご自分の時が来ること、つまり弟子たちのため、世の人のためにご自分の命を献げる時が来ることを覚悟しておられました。そしてついにその時が来たことを、イエスをはっきりと悟られたのです。

ご自分の生涯の終わり、死ぬ時が来た。そのときに主イエスは何を一番気にかけてられたか。それはご自分のことではなく、この地上に残して行くことになる弟子たちのことでした。

「13 イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」

もちろん、これまでもずっとイエスは弟子たちを愛してこられました。愛するがゆえに弟子たちを教え、弟子たちのために祈り、訓練し、また必要な時には叱責されました。それはすべてイエスの弟子たちに対する愛の働きかけでした。しかし、ご自分の終わりの時が来たことを悟られたイエスは、今、ご自分の弟子たちを愛して、どこまでも愛し通されます。死がご自身と弟子たちを分けてしまうとしても、死んでもイエスは弟子たちを愛して離さない。イエスの思いは高まり、それは具体的な行動となって表れました。それは、汚れた弟子たちの汚れた足を、ひとりひとりていねいに洗うことでした。

夕食の時となりました。いわゆる最後の晩餐です。しかしずっと遠い道を歩いて来た皆の足はひどく汚れていました。汗と泥がまじって悪臭を放っていたかもしれませぬ。履き物はサンダルのようなものでしたから。旅館のようなところであれば、その人が洗ってくれたかもしれませぬ。しかしここにはそのような人はいない。皆は足が気持ち悪い。だれかが水を用意してくれたらいいのに。年の若い者が、あるいは後から弟子になった者が、気を利かせないのか、と思っていた人もいたかもしれませぬ。しかしだれも動こうとはしません。

そのときイエスが立ち上がられました。

「13:3 イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうと

していることを悟り、4 食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。5 それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。」

この話を読むとき、わたしたちはすぐにこれを教訓の話として読むべきではないのです。まずは、イエスの手が弟子たちの足に触れ、イエスの心が弟子たちの心に触れていったことを感じてみたいのです。

イエスは上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それからたらいに水をくんで、ひとりひとり弟子たちの足を洗っていかれます。足の表、足の裏、膝の上まで、また足の指と指の間まで……。イエスの手がわたしの足を洗ってくださるとすれば、わたしたちはどんな気がするでしょうか。イエスの手がわたしの足を触られたとしたら、わたしの足は何を感じ、わたしの心は何を感じるでしょうか。イエスがわたしのもっとも汚いところを水で清めて、タオルで拭ってくださるのです。

申し訳ない。もったいない。先生がそんなことをすべきではない。わたしのほうこそイエスさまの足を洗って差し上げるべきです。

それを口にしたのがペテロでした。

「8わたしの足など、決して洗わないでください」

イエスさまがそんなことをしてくださるなんてダメです！

ペテロは正直です。はっきり口にします。それがペテロの良いところでは。

しかしイエスは言われます。

「7 わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、
後で、分かるようになる」

「8 もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと
何のかかわりもないことになる」

イエスが言われたとおり、ペテロは分かっていませんでした。なぜイエスが自分の足を洗ってくださるのか。なぜそんな必要があるのか。しかし最初拒んだペテロの足にイエスの手が触れて、なされるがままに汚い自分の足がイエスさまの手によってきれいになっていくのを感じた数分間は、ペテロがイエスの愛に包まれた至福の時間でした。イエスがわたしの足の汚れを取り去ってくださって自分はきれいになり、イエスがわたしの汚れを引き取ってご自分が汚れてくださる。このうえなくもつたいなく、しかし安心と喜びと深い慰めを感じた時間でした。

弟子たちが全員、自分の汚れた足をイエスさまに洗っていたとき、その前と後とでは空気が変わっていました。さっきまでは「だれかがやってくれないのか」と、人を咎める気持ちで働いていたのに、今はイエスの愛に浸されて、人を咎めていらだっていた自分を恥ずかしく思います。

イエスは言われます。

「13:14 ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければなりません。」

今はイエスの言葉がしみるように入ってきます。

「13:17 このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。」

この言葉を大切に心にとめていきましょう。イエスさまは「幸いだ」と言われたのです。そのとおりに実行するなら、あなたは幸福だ、幸せだと。

これから同じことをするとき、わたしたちは幸せ、幸福を経験させていただくのです。

皆さまのお働きは、このような愛のイエスさまの福音を持ち運ぶ働きです。足を用いてする働きです。

わたしたちの足は、あの最初の弟子たちと同じように、イエスさまによって洗っていただいた足です。わたしたちを愛しておしてくださるイエスの愛の手が触れてくださった足です。

あのとき、弟子たちはイエスがなされることの意味をよく分かっていませんでした。けれども主イエスの十字架と復活の後、弟子たちはイエスに足を洗っていただいた意味をはっきりと知りました。——イエスは死んでもわたしたちを見放されない。

わたしたちの罪と悪を、あの十字架の血によって清めてくださった。それはこの上なく限りない愛の業であった。その愛が、あのとき、わたしの足に触れて、わたしを清めてくださったのだと。

祈りましょう

主イエスさま、あなたはわたしたちを愛して、わたしたちの足も洗ってくださいました。その御手^{みて}の愛をわたしたちの心に悟らせてください。十字架の血によって清められた祝福を教えてください。そしてわたしたちも、あなたにならって愛をもって歩み、働くことができますように。アーメン